

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について

令和4年4月に篠原中学校3年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査の調査結果が文科省より提供されましたのでお知らせします。この結果を今後の学習指導に活かせるように取り組んでいきます。

【調査対象】 全国公立中学校第3学年

【調査実施日】 令和4年4月19日（火）

【調査内容】 教科に関する調査（国語・数学・理科）

国語：学習指導要領に示されている「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題。なお、中学校2学年までの内容となるようにしている。

数学：学習指導要領における「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」の各領域に示された指導内容をおおむね均等に出题している。また、素因数分解や箱ひげ図など、平成28年度告示の学習指導要領で新しく指導することになった単元が扱われる問が多かった。なお、中学校2学年までの内容となるようにしている。

理科：学習指導要領で明示された「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の各領域の指導内容をおおむね均等に出题している。また、選択式だけでなく、記述式の問題も2割程度あり、多面的な調査となっている。なお、中学校2学年までの内容となるようにしている。

【調査結果概況】 本校と県・全国(公立)との比較

		生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)
国語	本校	207	10.2 / 14	73
	神奈川県(公立)	61,393	9.7 / 14	69
	全国(公立)	891,820	9.7 / 14	69
数学	本校	208	8.8 / 14	63
	神奈川県(公立)	61,393	7.4 / 14	54
	全国(公立)	891,913	7.2 / 14	51.4
理科	本校	208	11.1 / 21	53
	神奈川県(公立)	61,439	10.5 / 21	50
	全国(公立)	892,585	10.4 / 21	49.1

【調査結果分析】

国語：本校の平均正答率は、全国平均正答率を上回っており、ほぼ全国平均正答率の内容とおおむね状況は類似しているが、「情報の扱い方に関する事項」や「書くこと」については下回る。「自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫して話したり、根拠を明確にして書く」について力をつけていくために、学んだ語句や表現を生かして、自分の考えをまとめる練習を繰り返し行う。また、情報を整理しつつ、主語・述語の対応など、文法的な観点から文章を推敲する力をつけていく。

漢字の習得と論理の展開などの内容理解については力がついてきているため今後も継続して指導を行い、さらなる学力向上を目指す。

数学：本校では、すべての設問において全国平均を上回っており、特にA領域「数と式」、C領域「関数」では、10%以上上回っていた。また、1年生で学習した内容よりも2年生で学習した内容の方が、正答率が高かった。観点別にみると、知識・技能では正答率が70%となっており、設問によっては90%以上の正答率のものもあった。一方で、思考・判断・表現では正答率が48.4%となっており、全国平均よりは高いものの、半分を下回る結果となった。特に、自らの考えを表現する図形の証明や数の規則性の説明、資料から読み取って考察する数問で正答率が50%以下となっており、無回答の割合も1割程度あった。今回の分析で、知識・技能の指導も大切だが、自分の考えを表現する場面を授業内で設ける必要を感じたので、今後の授業で取り入れることで、さらなる学力向上を目指す。

理科：本校に限らず、県、全国でも文章記述や実生活にからめた問題、問い方や答え方が問題集などで経験したことのない問題に対する正答率が非常に低かった。とくに文章記述は、本校では5人に1人の割合全国では約3人に1人の割合で無回答であることも分かった。文章記述に対する対応力が弱い生徒が非常に多いと感じている。その要因として、単純に文章記述問題に対する経験が少ないことも考えられるが、そもそも文章記述に対する自信やモチベーションが低いことが考えられる。したがって、このような問題を解けるようになるには、同様の形式の問題を考える機会を増やしたり記述式のレポート課題などを増やしていくことで自分の考えを言語化、文章化する力をつけるとともに、このような問題を解く意義やメリットを説明したり、難しいことでも最後までやりきらせるなどしたりして、どんな問題であろうと粘り強くきちんと取り組む姿勢を身につけさせることが重要であると考えられる。

【まとめ】

子どもたちの生活習慣のなかで、1日の授業時間以外の勉強や読書に費やす時間等の実態が分かったことで、学校での子どもたちへの助言や支援の参考となりました。また、昨年度の試験と比べて数学は、全国の正答率が下がりましたが、本校の正答率は昨年度と同じ値を保っていたので、子どもたちの学習意欲の高さを知りました。一方で、「各教科が好きですか」の質問については、昨年度よりも割合が下がってしまいました。今回実施した3教科以外も含め、各教科で正答率等を分析し、「楽しい」「好き」と思えるような指導の改善を図ります。

学校教育目標の「自分をつくる」「想いははぐくむ」「未来へつなげる」を目指すためには、子どもたちの学習意欲向上や基本的な生活習慣の確立が大切と考えています。今回の調査において本校は、比較的、生活習慣の質問に対して、全国水準かそれ以上を示しているため、学習面のみならず、引き続き生活習慣の指導にも力をいれていきます。

こうした子どもたちの健全な成長のためにご家庭のご理解・ご協力を頂きながら、本校の教育活動をすすめていきたいと思っております。

【生徒質問紙調査結果より（一部抜粋）】

〈学習面〉

- 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をします

か(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」では、本校は2時間以上勉強している人が約60%と高く、特に「2時間以上3時間未満」と回答した割合が高い。全国は、1時間以上2時間未満の割合が1番高い。

- 「学校の授業時間以外に、普段(月～金)1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。学習塾や家庭教師を含む)」では、「2時間以上3時間未満」が約35%で、全国は「1時間以上2時間未満」が約34%、となっている。
- 「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」では、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合が約75%で、全国と同水準だった。
- 「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っていますか」では、本校は「30分以上1時間未満」と回答した割合が約37%と1番高く、全国では「30分未満」の割合が1番高かった。
- 「国語の勉強は好きですか」では、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合が約64%で全国より約3%高い。
- 「数学の勉強は好きですか」では、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合が約65%で、全国より約7%高い。
- 「理科の勉強は好きですか」では、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合が約66%で、全国と同水準だった。
- 「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)」では、「よくしている」「ときどきしている」の割合が約71%で、全国と比較すると約10%高い。
- 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が約81%で、全国より約5%高い。
- 「友達と協力するのは楽しいと思いますか」では、「あてはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が約92%で、全国と同水準だった。
- 「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が約84%で、全国よりも約8%高い。
- 「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」が約70%で、全国と同水準だった。

〈生活面〉

- 「朝食を毎日食べているか」では、約83%と、全国よりも3%多い。
- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ているか」では、約38%と、全国と同水準だった。
- 「毎日、同じくらいの時刻に起きているか」では、約52%と、全国より5%低い。
- 「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどのくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯ゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む)をするか」では、2時間以上行う人が約46%いるが、全国と比較すると9%低かった。本校と全国では、「1時間以上2時間未満」の回答が1番高く、県内は「4時間以上」と回答した割合が1番高かった。
- 「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや

動画視聴などをするか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）」では、「1時間以上2時間未満」の回答の割合が高く、全国と差はなかった。

- 「学校の授業時間以外に、普段（月～金）1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。（教科書、漫画・雑誌は除く）」では、「全くしない」が全国割合は約39%、本校は約47%で、それぞれ1番高かった。また、30分以上読書をしている人は、全国より本校の方が割合は高い。
- 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」が66%で、全国と同水準だった。
- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」が85%で、全国より3%高い。